

ハッ場ダム検証案に対する意見



1

ハッ場ダム建設事業 費用便益比算定資料(平成23年10月) 関東地方整備局

利根川流域の洪水氾濫被害の想定額(百万円)

流量規模	ハッ場ダムがない場合の被害額	区間平均被害額	区間確率	年平均被害額	年平均被害額の累計
1	0	1	0.667	0	0
1/3	1	375,798	0.133	50,106	50,106
1/5	751,595	1,185,769	0.100	118,577	168,683
1/10	1,619,943	3,091,577	0.067	206,105	374,788
1/30	4,563,210	8,040,457	0.013	107,206	481,994
1/50	11,517,704	19,684,252	0.010	196,843	678,837
1/100	27,850,799	37,099,531	0.005	185,498	864,335
1/200	46,348,263				

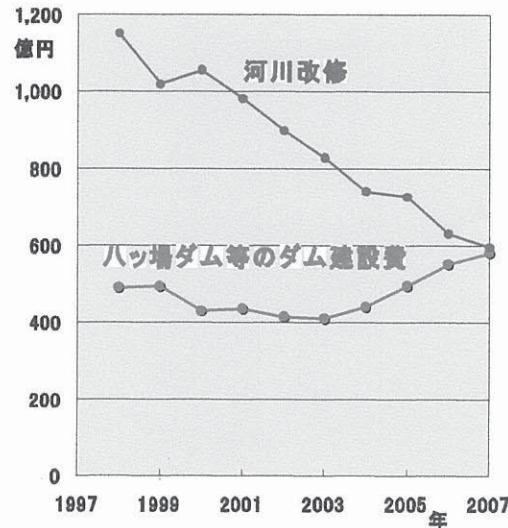
この50年間、つまり50年に1回の洪水まで考えれば、年平均被害額は6,788億円と算定

3

利根川、江戸川では脆弱な堤防が放置されている。

ハッ場ダム等のダム建設のために堤防の強化等の河川改修の予算は急減してきている。

利根川水系のダム建設と河川改修の事業費の推移



2

表4 最大水害被害額と1/5想定被害額の比較

最大水害被害額が1/5想定被害額を下回っているダム数	28
うち最大水害被害額が1/5想定被害額の10%未満	20
最大水害被害額が1/5想定被害額を上回っているダム数	11
合計	39

上表のとおり、39ダムのうち28ダムについては、年平均被害軽減期待額の算定に当たり、5年に1回の生起確率の降雨に伴い発生すると想定している洪水被害が過去10年間において一度も発生しておらず、このうち20ダムについては、過去10年間における最大水害被害額が1/5想定被害額の10%に満たない状況となっていた。

また、年平均被害軽減期待額の算定に当たり、2年に1回の生起確率の降雨に伴う洪水でも被害が発生すると想定している8ダムのうち6ダムについては、過去10年間における最大水害被害額が2年に1回の生起確率の降雨に伴う想定被害額を下回っていた。

このように、年平均被害軽減期待額の算定の基礎となる生起確率が高い降雨に伴う想定被害額については、過去における実際の水害の被害額を上回っているものが多く見受けられた。

4

また、年平均被害軽減期待額の算定に当たり、2年に1回の生起確率の降雨に伴う洪水でも被害が発生すると想定している8ダムのうち6ダムについては、過去10年間における最大水害被害額が2年に1回の生起確率の降雨に伴う想定被害額を下回っていた。

このように、年平均被害軽減期待額の算定の基礎となる生起確率が高い降雨に伴う想定被害額については、過去における実際の水害の被害額を上回っているものが多く見受けられた。

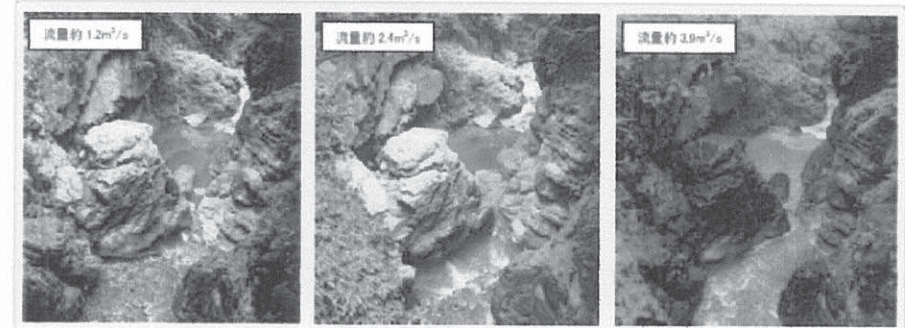
想定被害額は、特定の生起確率の降雨に伴う洪水の被害額について、計画上被害最大となる状況を想定して破堤地点を設定するなど、一定の条件に基づき氾濫シミュレーションを行うなどして想定されるものであり、実際に発生した水害の被害額と単純に比較できるものではないが、上記の状況を踏まえ、年平均被害軽減期待額の便益の算定方法をより合理的なものとするよう検討する必要があると認められる。

会計検査院・検査報告2010、p671

5

「流水の正常な機能の維持」の便益計算で使われたアンケートの写真

吾妻峡に「水を流す取組」について



7

「流水の正常な機能の維持」の対策メニューの一つ

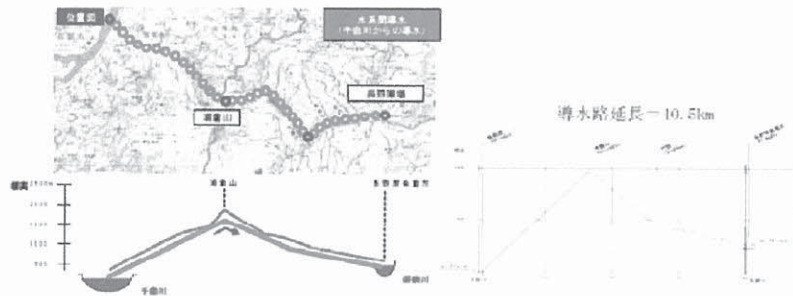


図4-4-14 千曲川からの導水イメージ

表4-4-9 水系間導水による代替案の諸元

	千曲川からの導水
方策の開発水量(m³/s)	ケース1 2.4 ケース2 0.3~1.7
水単価(億円/m³/s)	1.500~

※上記の開発量・水単価は、概略検討によるものである。

※水単価は、総額算コストを開発量で除して算出したものである。

6